

# 数字が語る、 治安のパラダイムシフト

千葉県警・入管庁データから読み解く「地域社会と移民政策」の現在地

※本資料は千葉県警察公式発表および総務省・出入国在留管理庁の一次情報（令和7年等）に基づき構成しています。

# 人口比わずか3%のグループが、ある日の逮捕者の80%を占めた

## THE MACRO REALITY



## THE MICRO ANOMALY

「千葉県警察 最新事件・事故ファイル (2026/5/27)」にて、1日あたりの逮捕者数で外国人が日本人を逆転。



外国人逮捕者: 4/5 (80%) (Alert Red) / 日本人逮捕者: 1/5 (20%) (White)

これを「たまたま起きた1日のスナップショット」と片付けるには、あまりにも非現実的な確率である。

# 2026年5月27日、千葉県内で記録された5件の逮捕内訳

FORENSIC DIAGNOSTIC TABLE

国籍	年齢	職業	容疑
フィリピン	24歳	無職（2名）	空き家侵入・窃盗未遂
タイ	56歳	無職	酒酔い・無免許運転
バングラデシュ	43歳	-	無免許運転
日本	54歳	-	電話de詐欺・窃盗

特別な凶悪犯罪ではなく、「空き家への侵入」や「無免許運転」といった地域住民の日常を脅かす身近な犯罪に直結している。

# 労働力需要のハブとなる千葉県で進行する、身近な治安リスクの顕在化



## 令和7年 千葉県警答弁

来日外国人検挙人員: **836人**  
(前年比 +32人)

検挙件数: **1,423件**

上位国籍トップ4: 中国、ベトナム、タイ、フィリピン

外国人労働者が集積しやすい産業構造が、そのまま地域社会の治安と密接にリンクし始めている。

## 増加する外国人犯罪は「不法滞在」と「生活密着型犯罪」に集中している

1位：入管法違反

2位：窃盗

3位：粗暴犯

年間総数では日本人が多数派であるものの、「不法滞在（入管法違反）」や「窃盗」など特定の罪種において、外国人比率が急激に跳ね上がる傾向が確認されている。

# 少子高齢化の穴埋めとして、在留外国人数は過去最大の412万人を突破した

**4,125,395人**

総数：（令和7年末）

**約3.36%**

対人口比：

**+35.6万人**

前年比急増：（率で+9.5%）

上位国籍：中国、ベトナム、韓国

400万人の壁

「特定技能」等の受け入れ拡大により増加が加速。まだ3%台の現在でこの影響力であり、地域によってはすでに10%を超える場所も点在している。

# 労働力の「量」を急増させ、管理の「質」が追いつかない政策の歪み



管理体制が追いつかないまま「受け入れ人数」だけを増やす政策が、結果として地域社会の治安悪化という形で帳尻を合わせている。

# 「これまで通りの日本」という幻想を捨て、 警戒心をアップデートする

## これまで

【夜の歩行】  
意識せず歩ける

【戸締まり】  
鍵は1つ・無施錠の時もある

【交通警戒】  
特になし



## これから



【夜の歩行】  
一人歩きは控え、  
不審な集団はスルーする



【戸締まり】  
常に二重ロックの徹底・  
防犯カメラ導入を検討



【交通警戒】  
無免許や不審な動きの車には  
絶対に近づかない

感情論ではなく客観的なデータに基づき、  
個人レベルでの防犯レベルを一段階引き上げる必要がある。

# 被害者となる前に、一次情報に基づき国へ厳格な管理を要求する



現在の日本において最も対策を急ぐべき課題の一つが「移民問題」。有権者としての監視の目が、抑止力となる。

## 1. 一次情報の継続的な精査

「たまたま」という言葉に流されず、出入国在留管理庁や警察の公式統計を自ら確認する。

## 2. 厳格な選別と管理の要求

移民問題や不法滞在に対する政治家のスタンス・政策を厳格に注視する。

## 3. 悪事を許さない社会の構築

治安維持を最優先とし、不法移民や犯罪に対して毅然とした対応を社会全体で求める。

もし明日、あなたの住む街で逮捕されたのが  
全員外国人だったら、あなたはどう思いますか。

感情ではなくデータを見よう。自分の身と街を守るために。